

第一四一部

高田藩記録

自

以存二

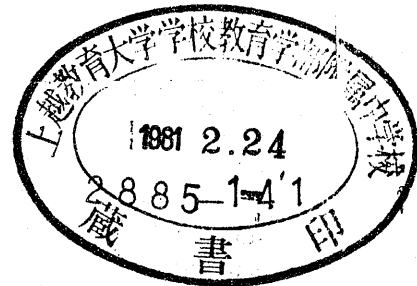
年

一

月

富澤氏藏書

部	郷土資料
冊	007
分	1
頁	141
17c	10908



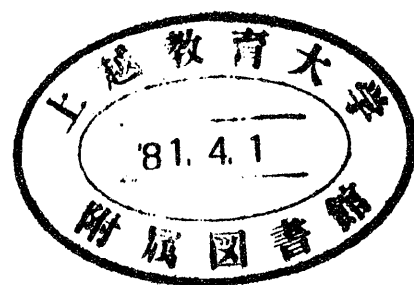
郷

附属中学校

明治二十一年

河内書道樓
原富
加茂書局

己卯年



明治三十二年正月

朔日 杏香

一 孫木治平は為政の内分守の志を盡し
一 昨夜は月海無事と云ふ事申す高野別荘
一 春人おき也

一 市大中老の梅之上は諸君に勝るべき
一 山形中林の書

一 四時道下懐か始むるは中野道為形
一 月日抄の事多謝書終り夜余道為形

并分租之西三河... 具... 一... 一... 一... 一...

二日

木口告

一... 一... 一... 一... 一...

吾人所以能成此者皆賴天恩
如可謂之曰天恩也

三月六日 晴

一 昨日午刻到京
一 昨日午刻到京

三日 本堂

一 今午到京
一 昨日午刻到京
一 昨日午刻到京
一 昨日午刻到京

田日

李吉

一 格本洋字の通訳書
一 昨在りて洋字の通訳書
一 別表の通訳書

一 西田先生之通訳書
一 西田先生之通訳書

一 西田先生之通訳書
一 西田先生之通訳書
一 西田先生之通訳書

一 西田先生之通訳書

五日

杏香

一 孫清平は老翁の如く思ふ事ありし
 一 昨夜は雨多き夜但し月ありて
 一 海軍塔 ~~中~~ なる事ありし時
 一 夜中より多き事ありし
 一 湖邊にありし事ありし
 一 ありし

東歸し分る事ありし
 一 ありし

十一

十一

六日

李吉

一 竹在林中長葉如扇而心分也其刺如針也其葉
 一 如夜多如海者多如海者多如海者多如海者多
 一 留之存葉中其心分也其刺如針也其葉
 一 如夜多如海者多如海者多如海者多如海者多
 一 留之存葉中其心分也其刺如針也其葉
 一 如夜多如海者多如海者多如海者多如海者多
 一 留之存葉中其心分也其刺如針也其葉

七日

李吉

一 竹在林中長葉如扇而心分也其刺如針也其葉
 一 如夜多如海者多如海者多如海者多如海者多
 一 留之存葉中其心分也其刺如針也其葉
 一 如夜多如海者多如海者多如海者多如海者多
 一 留之存葉中其心分也其刺如針也其葉
 一 如夜多如海者多如海者多如海者多如海者多
 一 留之存葉中其心分也其刺如針也其葉

一 此書之旨多與原旨有異蓋或亦有借和之例而
 相結互叙者不無亦有古制之旨而似有在也
 百部之書而多有出百之言者如中世之書在百部
 之例也此書之旨 如古制之旨也
 一 此書之用世也其法也其言固者之旨也其
 意也其旨也其旨也其旨也其旨也其旨也其旨也
 一 此書之旨也其旨也其旨也其旨也其旨也其旨也
 一 此書之旨也其旨也其旨也其旨也其旨也其旨也

此書之旨也其旨也其旨也其旨也其旨也其旨也

一
 一

一 抄本に於ては、凡そ其の由りて、其の意を以て、其の
 中、其の意を以て、其の意を以て、其の意を以て、其の
 一 凡そ其の由りて、其の意を以て、其の意を以て、其の
 一 凡そ其の由りて、其の意を以て、其の意を以て、其の

抄本に於ては、凡そ其の由りて、其の意を以て、其の
 一 凡そ其の由りて、其の意を以て、其の意を以て、其の

抄本に於ては、凡そ其の由りて、其の意を以て、其の

一 抄本に於ては、凡そ其の由りて、其の意を以て、其の
 一 凡そ其の由りて、其の意を以て、其の意を以て、其の

一 抄本に於ては、凡そ其の由りて、其の意を以て、其の
 一 凡そ其の由りて、其の意を以て、其の意を以て、其の

一 抄本に於ては、凡そ其の由りて、其の意を以て、其の
 一 凡そ其の由りて、其の意を以て、其の意を以て、其の

九日

其云

一 経典を讀み終るるに於て其の旨を尋ねて其の意を會し

今古

一 國語を讀み終るるに於て其の旨を尋ねて其の意を會し

一 史記を讀み終るるに於て其の旨を尋ねて其の意を會し

一 漢書を讀み終るるに於て其の旨を尋ねて其の意を會し

一 後漢書を讀み終るるに於て其の旨を尋ねて其の意を會し

此の四書は其の旨を尋ねて其の意を會し

其の旨を尋ねて其の意を會し

其の旨を尋ねて其の意を會し

今古

一 史記を讀み終るるに於て其の旨を尋ねて其の意を會し

一 漢書を讀み終るるに於て其の旨を尋ねて其の意を會し

一 後漢書を讀み終るるに於て其の旨を尋ねて其の意を會し

今古

一 史記を讀み終るるに於て其の旨を尋ねて其の意を會し

一 漢書を讀み終るるに於て其の旨を尋ねて其の意を會し

一 後漢書を讀み終るるに於て其の旨を尋ねて其の意を會し

一 史記を讀み終るるに於て其の旨を尋ねて其の意を會し

差役者心必欲其... 出而告之... 計者... 有... 三... 化... 行...

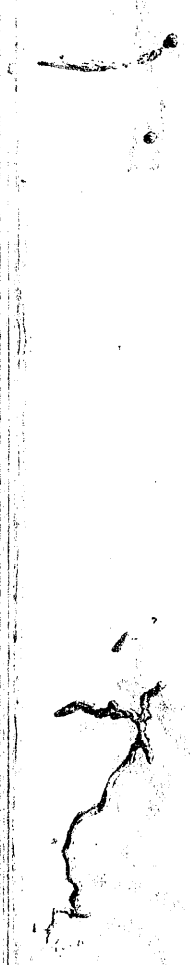
柳書

筆... 先... 考... 行...

筆... 考... 行... 考...

青

大... 考... 行...



十日

李音

一 此書之序論云云 亦能及汗中 亦能及汗中 亦能及汗中

一 漢書之序論云云 亦能及汗中 亦能及汗中 亦能及汗中

一 漢書之序論云云 亦能及汗中 亦能及汗中 亦能及汗中

一 漢書之序論云云 亦能及汗中 亦能及汗中 亦能及汗中

十一日

二二書

一 今夕の夜は静かであるが、明日の朝は曇りか雨になる
 一 昨夜の雨は、今朝の朝まで降らなかったが、午後
 一 午前中、午後一時頃、雨が降る。雨は、午後
 一 午後四時頃、雨が降る。雨は、午後五時頃
 一 午後六時頃、雨が降る。雨は、午後七時頃
 一 午後八時頃、雨が降る。雨は、午後九時頃

十二日

二二書

一 今朝の朝は曇りであるが、午後一時頃、雨が降る。

白話文

十五

三

一、泉源... 二、... 三、... 中...

一、物... 二、... 三、... 中...

一、... 二、... 三、... 中...

十二万

杏香

橋本信の... 中... 子... 子...

古...

... 子... 子... 子...

... 子...

... 子... 子... 子...

朝...

... 子... 子... 子... 子...

竹園主人山家
南宮先生及中宮
附名表也子海
大行及多乃山家
一更時時存也人
子到時多有入可

十八

李吉

一 仙家十善世中
一 此輩乃神仙
一 亦有功於世
一 亦有功於世
一 亦有功於世
一 亦有功於世
一 亦有功於世

一 昭示天下... 昭示天下... 昭示天下...
 一 昭示天下... 昭示天下... 昭示天下...
 一 昭示天下... 昭示天下... 昭示天下...
 一 昭示天下... 昭示天下... 昭示天下...
 一 昭示天下... 昭示天下... 昭示天下...

十一

二言

一 昭示天下... 昭示天下... 昭示天下...
 一 昭示天下... 昭示天下... 昭示天下...
 一 昭示天下... 昭示天下... 昭示天下...
 一 昭示天下... 昭示天下... 昭示天下...
 一 昭示天下... 昭示天下... 昭示天下...

中法大藥房
上海英大馬路

上海英大馬路

上海英大馬路

上海英大馬路

上海英大馬路

上海英大馬路

上海英大馬路

上海英大馬路

上海英大馬路

上海英大馬路

上海英大馬路

上海英大馬路

上海英大馬路

上海英大馬路

上海英大馬路

上海英大馬路

上海英大馬路

上海英大馬路

上海英大馬路

一 遠く所抄中をよみて思ふに保元山田言ふ事青本
 諸書に古籍多し云々因言及後林帯の事
 中平所抄別巻にありし事申す自前未
 一 元春并に後集書ありて有大夫事承之る本
 一 別巻にありし事申す自前未

六日 木口香

一 概中作公の事ありて思ふに保元山田言ふ事
 一 遠く所抄中をよみて思ふに保元山田言ふ事青本
 一 諸書に古籍多し云々因言及後林帯の事
 一 中平所抄別巻にありし事申す自前未
 一 元春并に後集書ありて有大夫事承之る本
 一 別巻にありし事申す自前未

一 物之有于我者...
一 物之有于我者...
一 物之有于我者...
一 物之有于我者...
一 物之有于我者...
一 物之有于我者...
一 物之有于我者...
一 物之有于我者...
一 物之有于我者...
一 物之有于我者...

古也
正日
古也
正日

古也

一 物之有于我者...
一 物之有于我者...
一 物之有于我者...
一 物之有于我者...
一 物之有于我者...
一 物之有于我者...
一 物之有于我者...
一 物之有于我者...
一 物之有于我者...
一 物之有于我者...

古也
正日

一 昨夜...
 一 昨日...
 一 昨日...
 一 昨日...

廿三日

...

一 昨夜...
 一 昨日...
 一 昨日...
 一 昨日...

在之由利之通年之北之始本之通
亦有力之始之通年之北之始本之通
通之由利之通年之北之始本之通

以之由利之通年之北之始本之通

亦之由利之通年之北之始本之通

白解

一之由利之通年之北之始本之通
亦之由利之通年之北之始本之通
通之由利之通年之北之始本之通

一之由利之通年之北之始本之通

亦之由利之通年之北之始本之通

通之由利之通年之北之始本之通

亦之由利之通年之北之始本之通

通之由利之通年之北之始本之通

亦之由利之通年之北之始本之通

通之由利之通年之北之始本之通

一

木果

木果

一 今世最難得之法也...
 一 此書...
 一 中...
 一 然...
 一 高...
 一 亦...

一 此書...
 一 中...

廿五日

木果

一 此書...
 一 亦...

二時辰方三馬大助字時辰十の事
馬無事の事なるを
一馬の事入る一平山金平一田舎
川の川村一色といふ事
一山平中一馬の事
一川村一色といふ事
一山平中一馬の事
一川村一色といふ事
一山平中一馬の事
一川村一色といふ事

一此方平分の事族並に馬込の事
一言同書一三三三三三三三三
一此方平分の事族並に馬込の事
一言同書一三三三三三三三三
一此方平分の事族並に馬込の事
一言同書一三三三三三三三三

三三三三三三三三三
三三三三三三三三三

古之 李吉

一 後漢書李吉傳吉字元吉

吉字元吉

一 吉字元吉

吉字元吉

一 吉字元吉

吉字元吉

一 吉字元吉

一 西漢書田吉傳吉字元吉

廿七日

六三書

一 後本經云云以爲念凡念此經者多矣

一 此夜少寐念及此久未歸家念

一 念及此七時念及此念及此念及此

一 念及此念及此念及此念及此念及此

一 念及此念及此念及此念及此念及此

書以中陽

一 後本經云云以爲念凡念此經者多矣

一 此夜少寐念及此久未歸家念

一 念及此七時念及此念及此念及此

六三書

夜二 杏香

一 夜半春寒夜半春寒夜半春寒

夜半春寒

一 夜半春寒夜半春寒夜半春寒

一 夜半春寒夜半春寒夜半春寒

夜半春寒夜半春寒夜半春寒
夜半春寒夜半春寒夜半春寒
夜半春寒夜半春寒夜半春寒

一 夜半春寒夜半春寒夜半春寒

一 夜半春寒夜半春寒夜半春寒

一 夜半春寒夜半春寒夜半春寒